

町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447 (内線331)

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



▲趣味・娯楽コーナーをぜひご覧ください

■室内で楽しむ趣味・娯楽コーナー

雨の日は、ゆっくり過ごす…それも大事にしたい時間ですが、積極的に楽しい事をして過ごすというのもいいかもしれません。今月は、室内で楽しめる児童書・一般書を紹介しています。人気のおりがみの本はもちろん、パンやお菓子のレシピ集、手芸、将棋、カメラ・スマホ活用術などの本を集めてみました。また、

6月6日は「おけいこの日」です。この日におけいこを始めたことは身につくとか…。何か新しいことに挑戦するのも素敵な事ですね。ぜひ、お役立てください。

■0歳児からのおはなし会について

図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。子育て中の保護者のみなさん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちと一緒にお気軽にご参加ください。

●日時

6月13日(木) 午前10時30分～

●会場

おはなしのへや(甲佐町生涯学習センター図書室内)

新着図書紹介

一般書



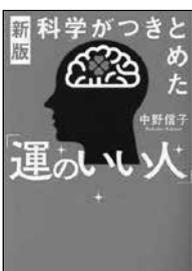
注文に時間がかかるカフェ
大平 一枝 著/ポプラ社

吃音で「いらっしゃいませ」、メニュー、代金が言えず、接客アルバイトを諦めてきた若者たちが、奇想天外な1dayカフェを始めた。こんな接客があってもいい。エッセイの名手・大平一枝が取材した、温かなノンフィクション。



「働き手不足1100万人」の衝撃

古屋 星斗・リクルーワーク研究所 著/アジダテ社
宅配便が届かない、救急車を呼んでも来ない…。生活維持サービスが消滅する前に何をすべきか。働き手不足を解消する4つの手段を紹介し、労働供給制約のなかで持続可能で豊かな社会をつくるための方向性と解決策を提案する。



科学がつきとめた「運のいい人」
中野 信子 著/サンマーク出版

夢や目標・欲しいモノを紙に書いて貼っておくと実現することも、他人に感謝するといったことも、その理由を科学的に説明することができる！今日からできる、運をよくするための行動や考え方を、脳科学の知見をもとに解説する。

児童書



はみがききれいしゅっぱつしんこう！
くぼ まちこ 作・絵/アリス館

はみがきが嫌いなたっくんの前に、はぶらしの「はみがききれいしゅ」がやってきた。たっくんのお口の中に入った「はみがききれいしゅ」は、お口の中をしゅっしゅっしゅっ！はみがきがとっても楽しくなるおすすめの本です。



おまえうまそうだな さよならウマソウ
宮西 達也 作・絵/ポプラ社

たおれたティラノサウルスを、アンキロサウルスが助けてくれました。じつはそのアンキロサウルスはなんと…。長い時を経てもういちど巡り合った「おまえうまそうだな」の20年後のふたりを描く、せつない再会の物語です。



といれ
新井 洋行 作・絵/偕成社

トイレでうんちできるかな？どの子もかみならず通る関門を明るく描きます。トイレ、おまるなどを呼び出す声の掛け合いで、絵本をめくります。かわいらしくシンプルな絵で、トイレトレーニングが楽しくすすむ絵本です。

公民館 だより

■お問い合わせ先
町教育委員会公民館事務局
☎096-234-2447 (内線321)

町生涯学習センター・ギャラリーモール展示のお知らせ

●水彩画作品展示
水彩画クラブ「こうさ水彩」の
会員作品を展示します。

▶期間 6月17日(月)～24日(月)
▶主催 「こうさ水彩」の会



「こうさ水彩」の会が
描いた過去の作品展

町公民館主催 公民館自主講座学習発表会が開催されました



▲自主講座学習発表会のステージ発表で行われたキッズダンス

4月20日(土) 町生涯学習センター・ホールおよびギャラリーモールで甲佐町公民館自主講座学習発表会が開催されました。

公民館自主講座の全27講座のうち、ギャラリーモールにはパッチワーク、水彩画、水墨画、書道、ペン字教室、木工教室の作品が展示され、ホールのステージではダンス、演奏、合唱など13講座の発表がありました。発表会に臨んだ受講生は、日頃の練習の成果を十二分に発揮し、観客からは大きな拍手が沸き起こりました。

来場者からは「みなさんの日頃の練習成果が見れてとても良かった」、「キッズダンスがかわいかった」など嬉しい意見を頂きました。今後も、寄せられた意見をもとに多くの皆さまにより楽しんでいただける発表会にしていきます。自主講座の受講生も募集していますので、お気軽に町教育委員会公民館事務局(町社会教育課内)にお尋ねください。

人権 心豊かに暮らすために

「こどもまんなか社会の実現に向けて」

熊本の取組

こども家庭庁の発足

令和5年4月に発足したこども家庭庁は、こどもがまんなかの社会を実現するため、こどもの視点に立って意見を聴き、こどもにとって一番の利益を考え、こどもと家庭の福祉や健康の向上を支援し、こどもの権利を守るための、こども政策に強力なリーダーシップをもって取り組むとしています。

熊本の取組み

熊本県では、あらゆる立場の個人や組織、コミュニティ等が、こどもや若者・子育て世代の視点に立ち、その最善の利益を第一に考えながら、こどもを誰一人取り残さないため様々な取組を実施する「こどもまんなか熊本」の実現に向け、取組みを進めています。

こどもまんなか応援サポーター宣言

こども家庭庁が創設した「こどもまんなか応援サポーター」制度の趣旨に賛同し、蒲島知事(当時)がくまモンと一緒に宣言を行いました。

「こどもまんなか熊本プロジェクトチーム」の設置

「こどもまんなか熊本」の取組みを県庁全体で進めていくため、5月に「こどもまんなか熊本プロジェクトチーム」を設置しました。また、20～30代の若手職員で「こどもまんなか応援団」を結成し、各部署の枠を超えて、検討や意見交換を行っています。

※熊本県人権情報誌「コッコ通信」vol.54より作成

お問い合わせ先

町社会教育課

☎096-234-2447

(内線327)